# 平成 22 年度 初芝立命館中学校･高等学校 学校評価

## はじめに

平成 22 年度は、初芝立命館中学校･高等学校にとって、校名変更 2 年目であるとともに、永年お世話になってきた初芝キャンパスで高校生が過ごす最後の年でもあり、さまざまな意味で歴史上の転機となる年でした。

平成 20 年度から取り組んだ学校評価の取り組みも 3 年目を迎え、保護者アンケートと教職員アンケートとともに、生徒による授業評価アンケートも 2 回行い、他の大阪初芝学園の幼稚園、小学校、中学校･高等学校とも連携し、各校の毎年度の重点課題の達成度を測る学校評価にすべく努力してきました。

以下、保護者アンケートや生徒による授業評価アンケート、およびその他のさまざまな資料から見た、平成 22 年度の学校重点目標の達成度についての報告を行います。

## 【１】今年度の概要

○　高校 1 年生は、立命館コース 150 人 グローバルコース 92 人 体育科 58 人 の合計 300 人 9 クラスでスタートをしました。学級減となった昨年度に比較して大幅な挽回傾向となりました。これは、ひとつには初芝立命館の学校像が広く理解されるようになってきたことと、いまひとつには橋下知事による大阪府の私立高校への進学についても無償化の動きが始まったことによると思われます。ただ、平成 22 年度の入学生に関しては大阪府の私学無償化の動きはあまり周知徹底されておらず、むしろ体育科の 2 クラス判断に端的に表れているように、立命館と大阪初芝学園との提携の効果が見え出したのが平成 22 年度からということができるように思われます。

○　中学校 1 年生は、立命館コース 59 人 グローバルコース 59 人 合計 118 人 4 クラスでのスタートとなりました。募集定員の 120 名にはおよびませんでしたが、高校の無償化の動きとは反対に、中学校受験は長びく不況の影響や、初芝立命館の教育像が小学生の保護者までにはまだなかなか届いていない、つまり立命館との提携の効果が表れるには、まだ立命館自体の認知度が小学校保護者世代までには浸透していないという状況を反映しているものとも考えられます。また、大阪府下の他の私立中学校の状況もかなり厳しく、一定のレベルで選抜を行った本校の入試政策上の判断もありました。

○　高校は、昨年度に引き続き、6 月には第 2 回体育祭を実施し、9 月には第 2 回陵風祭を開催しました。ともに、生徒の自主性を重視した新しい取り組みで、新しい伝統づくりをさらに一歩進めた豊かな内容のものとなりました。特に、体育祭における高校 3 年生体育科の集団演技は、自主的な中に統率された一糸乱れぬ動きを披露し、観客から感嘆の声が漏れるほど素晴らしい、日常の成果を見せてくれました。

○　高校 2 年生では、初芝立命館らしい独自のプログラムとして、普通科の生徒がテーマ別･コース別の修学旅行に取り組みました。反日デモの報道などで心配された中国コースですが、事前に現地とも連絡をとり安全を確認した上で、出発し、現地では歓迎されるとともに、予定の 800 本よりも多い 1,100 本の植林を行い黄砂の一因とも言われる砂漠の緑化に貢献しました。想像以上に大変な作業だったようですが、それゆえに、大きな達成感を得て帰ってきました。フィリピンのセブ島コースでは、とても美しい、けれども、何もない、カオハガンの島での生活を島民の方たちと体験し、フェアトレードについて学ぶとともに、セブ市内の孤児院にも訪問し、交流し、大きな感動を持って帰ってきました。世界唯一の分断国家を訪問した韓国コースでは、北朝鮮との国境線付近まで見学し、テレビから見るだけでは感じられない緊張感を感じ、平和について他人事ではなく考える、大きな学びを得て帰ってきました。

○　中学校では、毎年恒例の 6 月のスポーツ･フェスティバルや 9 月末から 10 月はじめの Australia Program では、生徒達が主体的な取り組みを生徒会のメンバーを中心に見せて

くれ、成功をおさめました。特にAustraliaからの生徒を受け入れる同時期に堺市からの依頼によりNew Zealandからも生徒を受け入れ、学校全体で広く国際交流体験を持つことができました。

○　また、中学校では、今年初めて合唱コンクールに取り組みました。3 月初旬の実施で、取り組む期間もあまり取れなかったにもかかわらず、各学年ともに懸命に取り組み、特に3年生にとっては、卒業にふさわしい、思い出づくりとなりました。

○　中学校の立命館コースでは、サイエンス･プログラムとイングリッシュ･プログラムをさらに進め､中1でのロボット講座や英語だけで校内で過ごす2日間English Immersion Camp を継続するとともに、中 2 では、立命館大学の飛行機研究会の方々のご協力も得て、紙飛行機で科学を体験するプログラムや、立命館アジア太平洋大学(APU)での宿泊を行い国際学生と直接交流をすることにより英語力を磨く English Immersion Camp in APU を実施し、独自のプログラムをさらに進めました。

○　高校の立命館コースでは、地球市民講座において、立命館大学の文学部 北岡教授や、産業社会学部･立命館小学校副校長の陰山教授、また、安斎 国際平和ミュージアム名誉館長のお話を聞く機会を設けたり、体育科では立命館大学BKCのスポーツ健康科学部の訪問･施設見学および最新のトレーニングに関する講義をいただいたりと、立命館の協力のもと、本校の教育の特色化をさらに進めました。

○　高校 3 年生の進路状況について、今年の 3 年生は初芝高等学校入学生として入学してきた最後の入学生でもあり､初芝立命館高等学校の第2期の卒業生でもある学年であり、学校としても最大限の支援をすべく進路指導に取り組んできました。結果として、現役大学･短大進学率は、昨年度の 74.7%を大きく上回り、85.2%と、大きく力を伸ばして、進学成果をあげてくれました。

○　中学校 3 年生の進路について、高校と同じく、この 3 年生は初芝堺中学校に入学してきた最後の入学生でもあり、初芝立命館中学校としての第 2 期の卒業生でもある学年であり、中学校としてもさまざまに支援を行い進路指導に取り組んできました。結果として、大阪初芝学園の高等学校へは 合計34人が進学し、その他の私立高校に19人、大阪府立高校には22人､その他へ2人が進学しました｡この他校受験の制度も今年度までで、次年度からは中高一貫校として、基本的に全員が初芝立命館高等学校へ推薦で進学することとなります。

**【２】今年度の重点目標の達成状況**

平成22年度の本校の重点目標は、(１)3年生(初芝高等学校・初芝堺中学校で入学した生徒達)の進路保証、(２) 立命館大学および立命館アジア太平洋大学との連携強化 、(３) 基礎学力の定着への指導強化と理工系進学者層拡大の取り組み、(４) 中高一貫教育の展開の策定と新校舎移転に伴う新しい教育づくりの準備 の 4 点でした。 以下、それぞれの項目についての達成状況を評価していきます。

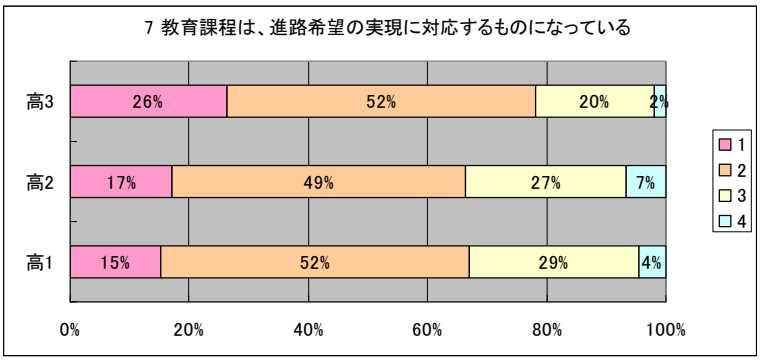
(１)3年生(初芝高等学校・初芝堺中学校で入学した生徒達)の進路保証

高校 3 年生の進路状況については、学年としても、学校としても、最大限の支援をすべく進路指導に取り組んできました。結果として、現役大学･短大進学率は85.2%と、在学中の 3 年間で大きく力を伸ばして、進学成果をあげてくれました。具体的には、指定校推薦も含めて、立命館大学14人(過年度1人)、立命館アジア太平洋大学2人、早稲田大学2人、関西学院大学1人、関西大学1人、京都産業大学3人(過年度1人)、近畿大学22人(過年度6人)、甲南大学1人、龍谷大学5人(過年度2人)、他に国公立大学 1 人など、大学進学の面で成果を残すとともに、就職に関しても、希望者の全員が、時期に遅い早いはあるものの、内定を得ることができました。

中学校 3 年生の進路については、初芝立命館高等学校 30 人(立命館コース 4 人、グローバルコースＳ4人、グローバルコースＡ18人、体育科4人)、初芝富田林高等学校

4 人(Ⅰ類 1 人、Ⅱ類 2 人、Ⅲ類 1 人)、初芝橋本高等学校には併願受験者はあったものの、結果的には 0 人と、学園内進学率は 44%でした。大阪府の公立高校へは三国丘高校の文理学科に 1 人をはじめ、ご家庭の状況などにあわせて、進路を確保することができました。

ただ、次年度以降の本校の展開を考える時、保護者アンケートの「7．教育課程は、進路希望の実現に対応するものになっている」の項目に関しては、全体として肯定的な回答が 70%となっており(中高ともに 70%)、特に高校においては高校 3 年生の学年が 80%近くなのに対して高 2 や高 1 においては 65%強となっていることから考えると、次年度以降、コースの特性に応じた教育づくりへの課題を残す結果と考えます。




（2）立命館大学および立命館アジア太平洋大学との連携強化

高校においては、地球市民講座において、立命館大学の文学部 北岡明佳教授による錯視に関わるご講演ならびに文学部の学びのお話や、産業社会学部教授･立命館小学校副校長の陰山英男先生の世界の状況と日本の学力状況から高校生の学力は努力次第で短期間に伸ばすことができるというお話、また、安斎郁郎国際平和ミュージアム名誉館長のマジックから先入観によって引き起こされる国際紛争のお話や個々人の気持ちから平和につながるというお話を聞く機会を設けることができました。

立命館コースでは、高校 2 年生の全員が 5 月に立命館アジア太平洋大学を訪れ、APU 研修を行い、APU の環境や教育への理解を深めるとともに、国際的な学びへの関心を強くして帰ってきました。また、高校 1 年生の地球市民科の授業では、立命館大学からキャリアセンターの課長や一貫教育部の副部長や次長、また、立命館アジア太平洋大学からはインドからの留学生(卒業生)、タイからの留学生(4 回生)、韓国からの留学生(4 回生)をゲストティーチャーとしてお迎えし、「なぜ学び、なぜ働くのか？」を討議しグループごとに一定の結論を出すという、立命館大学と立命館アジア太平洋大学との連携授業を実施しました。

グローバルコースにおいても、高校 1 年生の地球市民科の授業で、立命館大学衣笠キャンパスに在籍し、就職活動を終えた 4 回生 5 名に立命館大学のキャリアセンターの協力でお越しいただき、大学生が面接官となり高校生に模擬集団面接を実施するという、自己の理想の実現において「満足して生きていく力」や生徒の勤労観の養成、働くことによって社会にどう貢献するかを見いだすきっかけづくりを目的とした連携授業を実施しました。

体育科でも、立命館大学 BKC のスポーツ健康科学部の訪問･施設見学および最新のトレーニングに関する講義をいただき、立命館の協力のもと、本校の教育の特色化をさらに進めました。

また、中学校では、中学校 2 年生の立命館コースで、立命館大学の飛行機研究会の方々の協力を得て、紙飛行機で科学を体験するサイエンス･プログラムを実施し、また、立命館アジア太平洋大学(APU)での宿泊を行い国際学生と直接交流をすることにより英語力を磨く English Immersion Camp in APU を実施し、本校ならではの直接的な

連携の取り組みを行うことができました。

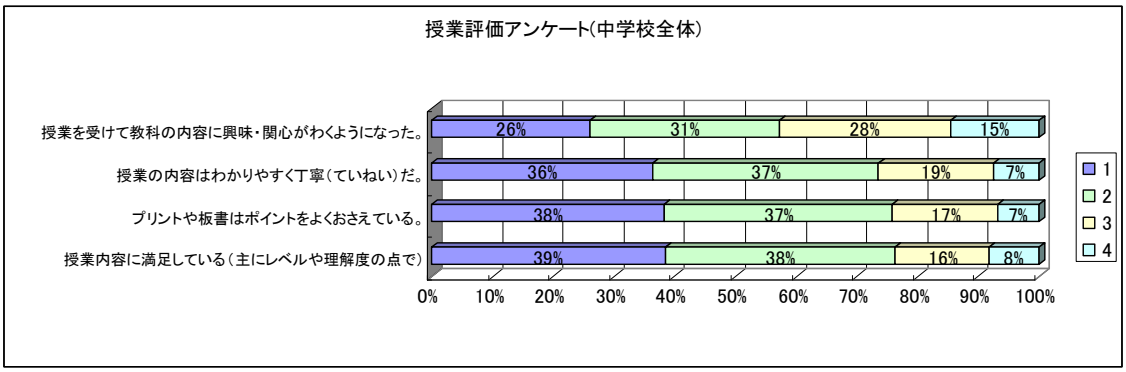
いずれの取り組みにおいても、生徒への事後のアンケートでは、「その分野への理解が深まった」という点でも、「進路を考える上で役に立った」という点でも、肯定的な回答が多く、本校の教育の特色づけという点でも、生徒達自身が自分達の将来を考える機会という点でも、成果があがったと考えます。

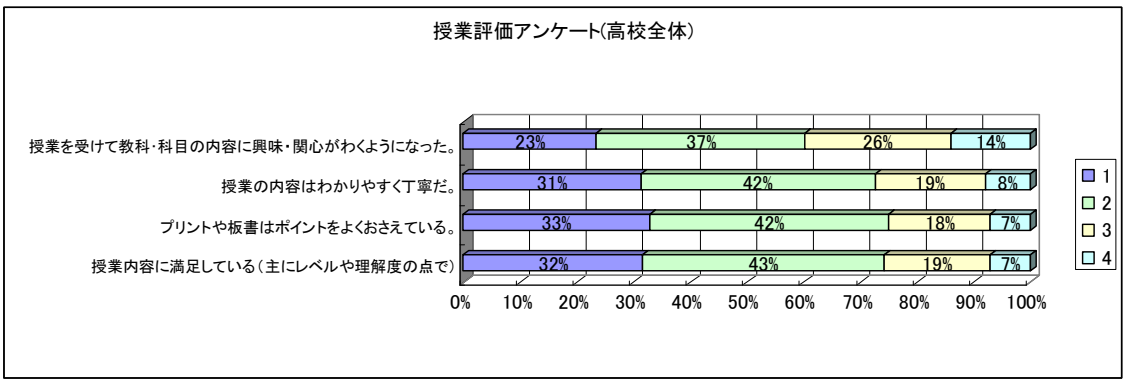
また、高校 2 年生の立命館コースの生徒対象にはじめた RS プログラムは、放課後の自習室での学習を進めるにあたって立命館大学の理系学部の学生の援助を得て自由に質問ができるというシステムでしたが、立命館大学からの優秀な学生さんに直接勉強を教えてもらうことで、生徒達の意欲も高まると同時に立命館大学への理解も深まる意義の大きな取り組みとなりました。

（3）基礎学力の定着への指導強化と理工系進学者層拡大の取り組み

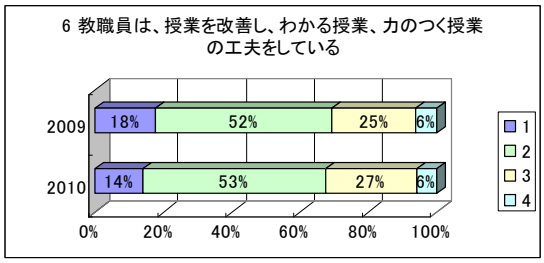
基礎学力の定着への指導強化については、中学校ではこまめな提出課題の点検と未提出者や未完成者への補習を行い、基礎学力の定着を図るとともに生徒各自への学習習慣の定着を図りました。また、高校においても課題に応じた進学補習を行うとともに、特に高校 1 年生では早朝テストの取り組みおよび不合格者への放課後補習を行うなど、早期から取り組みました。高校 2 年生でも、特に立命館コース生徒の基礎学力向上に取り組み、後期からは立命館大学の協力により RS プログラムを始めるとともに、春休みには集中的な英語の講座や数学の補習を到達度検証試験対策として行いました。

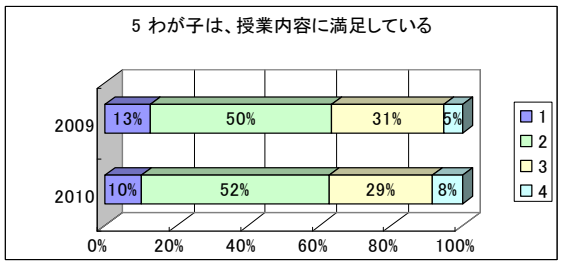
ただ、通常の授業に関しては、生徒の授業評価アンケートの結果から見ると、「授業内容に満足している」・「プリントや板書はポイントをよくおさえている」・「授業の内容はわかりやすく丁寧だ」の 3 つの項目についてはすべて肯定的な回答が 70%を超えており、全体としては授業についてはわかると感じているものの、「授業を受けて教科・科目の内容に興味・関心がわくようになった」という項目では 60%にやや届かない結果となっているように、授業から家庭学習など自主的な学習につなげていかに生徒に力をつけるかという点が課題であると言えます。



また、保護者へのアンケートでも、「6. 教職員は、授業を改善し、わかる授業、力のつく授業の工夫をしている」と「5. わが子は、授業内容に満足している」の 2 項目に関してはともに肯定的な評価が 70%をきる結果となっており、上記の生徒による授業評価アンケートとあわせて、より一層の授業改善が求められていると考えました。特に、これらの項目に関しては、教職員アンケート(中学校)では 90%以上の割合で努力しているという結果となっており、生徒の視点から見て、一層の改善を考えます。




授業改善に関して、高校については、年 2 回の公開授業週間などにおいて、教職員相互の授業見学や副校長による全教員の授業参観および事後指導を行いました。平成 23 年度からは新校舎となり、各教室の IT 環境なども整備されるので、より一層の授業改革に努めることとなります。

理工系進学者層拡大の取り組みについては、特に立命館コースについては、高 2 の生徒を対象に理系プロモーション･デイを実施し、立命館大学の大学院生に各自の研究をプレゼンテーションで発表してもらう機会を設けたり、高 1 の生徒は昨年度に引き続き BKC 研修を行ったりするなどして、理系の学びへの興味･関心を高める取り組みを行いました。また、保護者対象にも、立命館大学のキャリアセンターの BKC 部長の高山教授に理系の学びや就職状況についての講演をいただき、その後、座談会形式でさまざまな保護者の思いも交流する機会を設けました。結果として、新年度の高 3 の立命館コースは、進路選択の際の指導もあり、生徒の希望で、理系 2 クラス、文系 1 クラスで展開することとなりました。また、高 1 では、立命館コース 150 人に対しての意識調査で、1 月段階で、「理系学部に興味がある」69 人：46.0%、「文系よりだが理系にも興味がある」19 人：12.7%、「文系に興味がある」54 人：36.0%、「どちらにも今は興味がない、または、無回答」8 人：5.4% となっており、今後、さらに特に理系学部の教育内容の魅力を生徒･保護者に伝えることで、より一層の意識づけが可能だと考えます。また、本中学校の立命館コースでは、サイエンス･プログラムとして、1 年生ではロボット講座を、2 年生では紙飛行機から科学を考える講座を実施しており、3 年生ではソーラー･ボート･レースにチャレンジする予定です。全体としても中 1 での臨海学校を昨年度より琵琶湖に変更し、理科的な体験学習を中心に行っており、より低い年齢層からの理工系への意欲づけを行っています。

（4）中高一貫教育の展開の策定と新校舎移転に伴う新しい教育づくりの準備

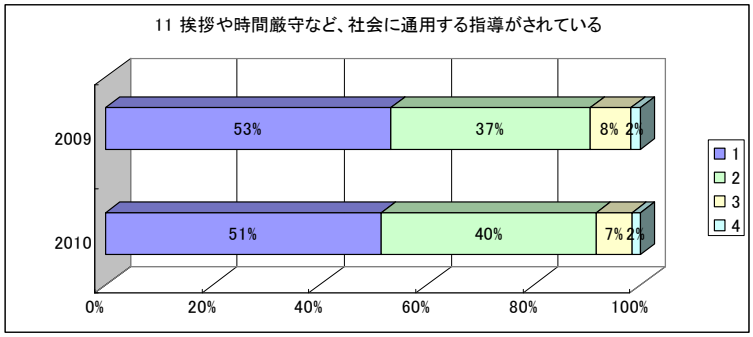
初芝立命館高等学校は、北野田キャンパスでの新校舎の竣工式を平成 23 年 3 月 3 日に行い、3 月末には永年慣れ親しんだ初芝の地のキャンパスから北野田キャンパスへの移転を行いました。新校舎は、環境への配慮とともに、普通教室でもすべての教室にプロジェクターとスクリーンを配備するなど、教育環境を整備し、新しい教育に対応できる仕様となっています。ただ、本来であれば、平成 22 年度中にそれらの機器使用の研修も含め教育づくりの準備を進めるべきだったのですが、仕様の最終決定が遅めであったり、実際の教室に入れるのが 3 月になり、学年末の繁忙期と重なったりしたことなどから、十分な準備ができませんでした。次年度以降の課題となりました。

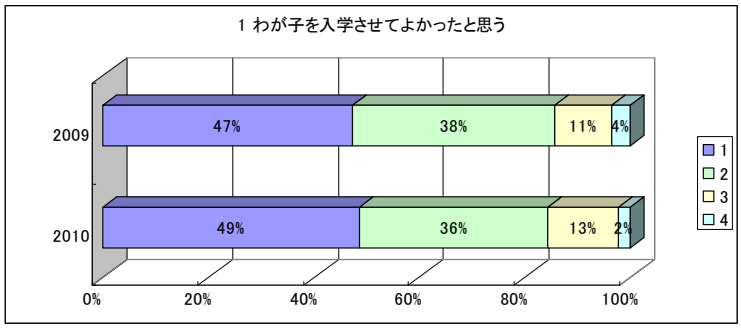
また、中高一貫教育の策定については、中高の進学のシステムやクラス編成方針、校時表の統一など、大きな方針は決めましたが、実際に離れて運用していた中学校と高等学校の運営を一気に統一することはせず、徐々に相互理解を深めた上で統一運用

していくこととなりました。新キャンパスでの諸課題も、実際に使い始めてからしかわからない部分もあり、これらは次年度以降の課題とさせていただきます。

## 【３】昨年度の学校評価と改善状況

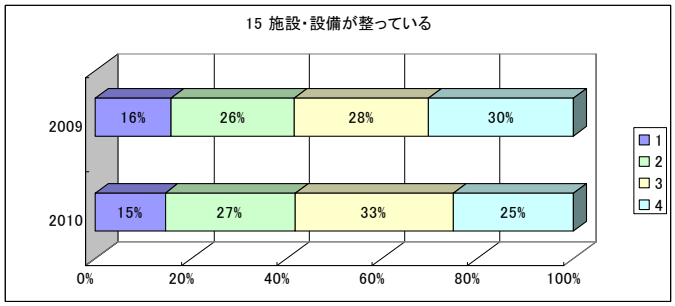
昨年度の学校評価では、生徒指導やサポートに関して、高い評価をいただきました。特に、本校が従来から大切にしてきている「11 挨拶や時間厳守など、社会に通用する指導がされている」については、90％の肯定的な回答をいただき、本校の教育方針を理解していただいた上で、満足度も高いことがうかがえました。これらの項目に関しては、昨年度同様、高い評価をいただいています。




ただ、各教科の授業に関しては、授業評価アンケート結果からも、生徒の受動的な傾向が強く出ており、今後、自発的な学習を促し、充実した基礎学力の定着のための指導とともに、個々の生徒の学習スタイルの定着のための指導の方策を検討することが課題となっていました。この点に関しましては、上記の授業評価アンケートの結果などにもある通り、引き続き、授業改革に取り組んでいく必要性を強く感じています。

また、「15 施設・設備が整っている」については、昨年度、特に高校の保護者アンケートで厳しいご意見をいただいていました。今年度も、同様に、過半数の保護者の方から厳しい評価をいただいています。




高校の新校舎への移転を機に、施設･設備面での課題だけでなく、本校の教育内容につきましても大いに改善し、前進させることを目指します。

## 【４】平成 23 年度の重点目標

平成 23 年度は、高校にとっては北野田キャンパスでの新しい生活がスタートする年であるとともに、初芝立命館として入学した生徒達が、それぞれ、高校からは大学へ、中学校からは本高等学校へと進学していく最初の年となります。その大きな節目の中で、平成 22 年度の学校評価も踏まえ、下記の 4 点を、初芝立命館中学校･高等学校の今年度の重点課題とします。

(1) 立命館コース、グローバルコース、体育科、3 つのコース・科の生徒が互いに切磋琢磨する。
(2) 質の高い授業を提供する。
(3) ミドルアップダウンの学校運営をする。
(4) 立命館コース 高校 3 年生の全員が立命館の大学に進学する。
(5) 中高一貫教育の体制を構築する。

## おわりに

平成 23 年度は、初芝立命館中学校と高等学校が北野田キャンパスにおいて中高一貫の体制での学校運営が可能になる初年度であるとともに、高校からは大学へ、中学校からは高校への進学を控え、その教育力の真価が問われる初年度でもあります。その自覚を強く持ち、教職員は日々の教育実践に取り組んでいきます。

以 上